

金はどんなに想定外の事態が起きようと、けっして無価値にはならない。世界のどこでも通用する現物資産だ。有事に備える保険のような資産だけに、どう保管するかで投資家は悩む。

# 多面鏡

販売会社の保護預かり制度を利用したり、現物を引き取っても銀行の貸金庫に保管したりする投資家は多い。だが、未曾有の経済危機などに遭遇した場合でも、すぐさま自分の金を持ち出せるのか。一抹の不安

## 独連銀、保有金を自国へ移動

### 手元にあつてこそ安心？

は残る。

上げると発表した。

している金が本当に存在し

金は自宅に保管し、時々公的な金保有量でドイツは3396ト(2012年時点)と米国(8133ト)に保管すれば、たとえ頑強に次ぐ。しかし、東西ドイツが再統合された1990年まで、保有金のほとんどは国外の中央銀行に預かってもらっていた。

□ □

ドイツ連邦銀行

実は、今回の移送は二回

こつした悩みは中央銀行

東西冷戦構造の中では、

銀行にあつた930トは国

も同じだ。ドイツ連邦銀行

国内に持つより国外に置く

内に移し終えた。さらに昨

(通称ブントスバンク)は

方が安全と判断したから

秋、監査機関が「残りの国

先月、国外に保管している

保有金のうち674ト(3

ているのか」と連銀を追求

兆3千億円相当)を202

る、個人で言えば盗難のり

し、第2次計画を決めた。

0年末までにフランクフル

スクが高かった。

欧州は他国による侵略の

トにある連銀金庫に移し、

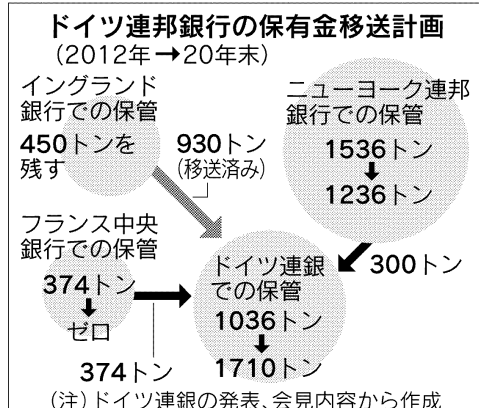
その冷戦構造は消えた。

歴史を繰り返す、ドイツは

国内保管率を50%まで引き

ドイツ国内では米国で保管

第1次世界大戦後に通貨価



この判断には、欧州危機をめぐってフランスへの疑念もあつた。個人投資家も「金融危機などで痛い目にあつた人ほど現物の金にこだわ

るニューヨークの通説だが、日銀はクやロンドンに一定量は残す。流動性の利点を考えてのブントス流分散の術だ。同じユーロ圏のフランスは、もはや保管の利点がないとして全量引きあげる。ドイツ人が心配性なのか、日本人が能天気なのか、日本が70%を超すドイツに比べ、日本は3%台にすぎない。ドイツ人が心配性なのか、日本人が能天気なのか、個人投資家も「金融危機などで痛い目にあつた人ほど現物の金にこだわ

り、手元に置く傾向がある」(マーケットアナリストの豊島逸夫氏)という。(編集委員 志田富雄)